

# 脱サラで、家を継いで漁師になりました

かわかつ かずひこ

大村市漁業協同組合 川勝 一彦さん 56歳

漁業暦 1年

川勝さんは、大村湾でナマコ漁業をはじめ、ウニやサザエ漁、かご漁や刺網漁業等、時期に応じていろいろな漁業を営んでいます。



○川勝さんは56歳で漁師になりました。

サラリーマンをしていますが、定年まで6年を残して、父の跡を継ぐ形で実家に戻りました。

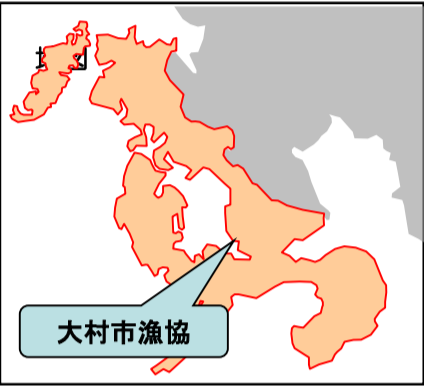
子供のころから父の操業を見て、あるいは手伝ったりして漁業のことは分かっているつもりでしたが、実際に生活の基盤として漁業をするとなると大変でした。今でも修行中です。

就業にあたっては市の研修制度を活用しました。技術習得や生活面で助かりました。

以前と比べて収入は減りましたが、このことは織り込み済みでした。その分、自由に使える時間が増えました。

漁師になることに妻は勿論反対でした。しかし、あきらめたのか、今では私を応援してくれています。

これからは漁師の腕を磨き、漁獲アップを図りたいです。



## 55歳 脱サラして、漁師研修開始

27年間勤めた会社を辞めて漁師になる事を決めました。決め手は、  
・子供が成長したこと  
・大村市の研修制度があったこと  
・家業を継ぐということで、その後の生活が想定できたことです。

## 56歳 今年、独立して准組合員に

1年間かけて研修を終了しました。同時に父から漁船を譲り受け、漁師として独立。漁業協同組合に加入し、准組合員となりました。今は、研修で学んだことを実践しています。

## 57歳 来年は正組合員に

1年間の漁師実績を積んだ後は漁協の正組合員となって、地元の水産業を盛り上げたいです。当地区も高齢化が進んでいるので、中年の新規参入者でも、一定勢力となることが期待されています。

## 川勝さんのスケジュール

基本的に漁は朝が早いです。夜明け前から沖に出て、昼には帰港し、漁獲物の出荷や漁具の手入れ等を行います。その後は自由時間です。夕食まで、ゆっくりした時間を過ごします。

### (年間の操業種類)

漁場は沿岸から目視できる沿岸域だけです。しかも、漁獲対象の殆どはナマコ・ウニなどの磯根資源なので、この場合は漁協の共同漁業権の区域内の操業です。

漁業種毎に操業の形は異なりますし、勿論、一日のタイムスケジュールも異なります。

大村湾の主な漁業種類はなまこ漁です。これは正月を中心とした冬の漁です。桁という網漁具を動力漁船で曳いて漁獲します。

ナマコの後にはウニ、サザエ漁や刺網漁です。刺網ではイカやキスなどが獲れます。これは春まで続きます。

春の連休の後にはかご漁をします。かごではカニ等を獲ります。かご漁はなまこ漁が始まるまで続きます。

### ◎年間操業スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なまこけた曳き	←→											←→
ウニ、サザエ漁 刺網漁		←→										
かご漁					←→							

### 漁業やその他の活動の様子



私の漁船「勝栄丸」と客船の模型です。

勝栄丸は父が使っていたもので、この船でナマコ漁をします。その他の漁は、小型の伝馬船を使います。

模型は、漁を終えた午後に時間をかけて作りました。自宅の玄関に飾っています。今は次の模型を構想しています。

### 家族(妻)の声

定年まで6年というところで、「サラリーマンから実家を継いで漁師になる」と相談されました。最初は勿論反対しました。収入もかなり減りましたが、家計はどうかやりくりしています。今は怪我のないようにがんばってほしいと思っています。

### 漁業就業を目指す方へ

私は漁家育ちで、漁業技術は大村市の研修制度を利用して、父から教わりました。そのため、あまり抵抗なく漁師生活に入ることができました。サラリーマンの生活と比べると、いいとか悪いとか単純には言えません。漁師は一人社長で自由ですが、頑張らなくて漁をしないと誰も給料を払ってくれません。また、冬季の朝の操業は寒くて辛いです。それでも頑張ろうと思う方は漁師の道を検討したらいかがでしょうか。

### 川勝さんの本音チャート

